

# “得”字補語文について

关于“得”字补语句

濱 口 英 樹

本文首先提出可将“得”字补语句分为表示描述的补语句与表示结果的补语句两种类型。第二节概述“得”字补语句的主要述语的问题。在第三、第四、第五、第六这四节里将分别讨论，Li 1990 主张的描述性表现、结果性表现的分析、本文所主张的“得”字补语句的结构、以及可以表示「使动」的结果性表现。最后还将指出今后的研究方向和汉语教学上需要解决的问题。

## 0. はじめに

中国語教育において、初級教科書で扱われる文法事項の中で、学生にわかりにくい（教師が教えるににくい）用語は「主述述語文」と「補語」ではないかと思われる。中国語のほとんどの教科書、文法書では、形容詞述語文の1種と思われる文を「主述述語文」と呼ぶ。また、補語については、「回去」の“回”は動詞であるが、“走回去”の“回”は補語であると言われ、可能補語には結果補語と方向補語が含まれる、つまり、補語の中に補語があるという状況である。

“得”字補語文の呼称、構造についてもさまざまな議論がある。例えば教科書では、「日中いぶこみ広場（朝日出版社）」は“得”字補語文を「状態補語」と呼び、「大学生のための初級中国語24回（白帝社）」は「状態補語」と呼んでいる。文法書では、「現代中国語総説（三省堂）」は「程度補語」と呼び、李 1993は“得”字補語文と呼んでいる。本稿は、この“得”字補語文（以下“得”字文）の構造について考察するとともに、新たな分析を提示し、中国語教育の一助としたい。

## 1. 2種類の“得”字文

日本や中国の文法書ではあまり見られない分類であるが、J. Huang 1988: 274や Li 1990: 43では、“得”字文は次の2種類に分類されている。

- (1) a. 描写的表現 (Descriptive expression)  
他跑得很快。(彼は走るのがはやい)
- b. 結果的表現 (Resultative expression)

他跑得很累。(彼は走って疲れた)

(1a)の描写的表現は李 1993: 191の「補語が“得”の中心語を説明し、動作、状態の状況を現わしているもの」や望月1969: 24のAグループに相当し、(1b)の結果的表現は李 1993: 193の「補語が“得”の前の中心語と関係を生ずるとともに、主語とも関係を生じ、動作行為の引き起こす結果を表すとともに、人あるいは物(主語が指しているもの)が置かれている状態を表すもの」や望月1969: 25のBグループに相当するものである。

Li 1990: 44では描写的表現の“得”よりあとの部分((1a)では“很快”)を形容詞句とし、結果的表現の“得”よりあとの部分((1b)の“很累”を含む統語範疇)を節であると分析している。

## 2. “得”字文の主要述語

C.Huang and Mangione 1985、J. Huang 1988、Li 1990などでは、“得”字文の主要述語は「動詞+“得”」の動詞(以下V1)なのか文末の形容詞(以下V2)なのかということも議論されている。V1が主要述語であれば、補語という名称が必要かもしれないが、V2が主要述語であれば形容詞述語文の一種となり、教学的にも負担が軽くなると思われる。

V2が主要述語であるという説を支持するものとして、反復疑問文の成立可能性についての議論がある。

(2) a. 他跑得快不快?(彼は走るのが速いか)

b. \*他跑不跑得很快?

(3) a. 他跑得累不累?(彼は走って疲れたか)

b. \*他跑不跑得很累?

(2)(3)の例が示すのは、V2の“快”“累”は反復疑問の形になるが、V1の“跑”は反復疑問の形にすることができない不完全な述語であり、V2が主要述語であるというものである。

V2が主要述語であるという説を支持する2つめの議論として、アスペクトマーカの出現可能性についての議論がある。

(4) a. 我走了五里路。(彼は5里歩いた)

b. \*他跑了得很快。

c. \*他跑了得很累。

d. 他跑得很快了。(彼は走るのが速くなった)

e. 他跑得很累了。(彼は走ってとても疲れた)

一般的には(4a)のように、主要述語にはアスペクトマーカを付加することができる。(4b)(4c)ではV1にはアスペクトマーカを付加できないことが示され、(4d)(4e)ではV2にアスペクトマーカを付加できることが示されている。

### 3. 描写的表現についての Li 1990の分析

Li 1990: 48-50では、(5)の形式を持つ描写的表現の構造について、(6)-(9)のような分析がなされている。

(5) NP X V de AP

NPとVが文の従属節を形成する（本論でいうV2が主要述語になる）場合は以下のような構造になる。

(6) a. [<sub>S</sub> [<sub>S</sub> NP X V] AP]

b. [<sub>S</sub> [<sub>S</sub> NP X V] [e AP]]

Vが主文の主要述語になる（本論でいうV1が主要述語になる）場合は以下のような構造になる。

(7) [<sub>S</sub> NP X [<sub>VP</sub> V de AP]]

(6a)では節[NP X V]は形容詞句(AP)の主語節であり、(6b)では[NP X V]は付加節であるという分析である。また、(6b)の形容詞句は主文の主要述語であり、その主語は空範疇(e)である。

しかし、以下の否定のスコープの問題を考えると(6a)も(6b)も(5)の形式の構造とみなすことはできない。

(8) 他 [[没有] {念书}] 很重要。(彼が本を読まなかったことはとても重要だ)

(8)は一般的な主語節(文主語)の例であり、波カッコは否定詞“没有”のスコープを現わしているが、主語節の否定のスコープが主語節や付加節を超えて文末の形容詞に及ぶことはない。しかし(9)では“没有”のスコープが文末の形容詞にまで及んでいる。

(9) 他书 [[没有] {念得很多}]。(彼は本をたくさん読んでいない)

Paris 1978: 86-88は、(6a-b)のような、文頭の名詞とその直後の動詞を主語節とする分析では、(10)のような主語節との統語的な差異が説明できないとしている。

(10) 他来没有用。(彼が来ても役に立たない)

(11) a. 他说话说得很清楚。(彼は話し方がはっきりしている)

b. 他来这里、(\*来) 没有用。(彼がここへ来ても役に立たない)

(12) a. 连他也说得不清楚。(彼さえはっきり話さない)

b. 连他也不来很遗憾。(彼さえ来ないのは残念だ)

(11)では、“得”字文は動詞反復式が可能であるのに対して、主語節は動詞反復式が許されないことが、また、(12)では、“得”字文の場合は、“连…也”のスコープが文末の“不清楚”まで及ぶのに対して、主語節の場合は主語節内の述語である“不来”までしか及ばないことが示されている。

#### 4. 結果的表現についての Li 1990の分析

Li 1990: 53-59では、(13)の形式を持つ結果的表現の構造について、(14)-(15)のような分析がなされている。

(13) NP1 X V1 de [(NP2) VP2]

前節の(9)で見たように、以下の(14)も否定のスコープがやはり文末にまで及ぶことを考えると、(13)の [NP1 X V1] は従属節と考えることはできず、[NP2 VP2] が従属節となる(15)の構造を持つことになる。

(14) 他 [[没有] {念得很累}]. (彼は本を読んで疲れなかった)

(15) [NP1 [X [V1-de [NP2 VP2]]]]

そして(3)の反復疑問文の成立可能性については、(16)のように一般的な動詞でも反復疑問の形にできないものがあるとし、V1が主要述語であると主張する。

(13) a. 他跑得累不累? (彼は走って疲れましたか)

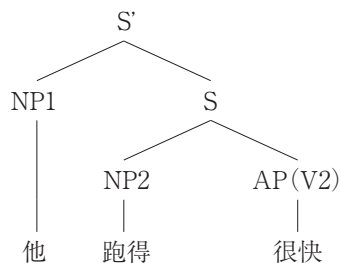
b. \*他跑不跑得很累?

(16) \*他赢不赢?

#### 5. 提案する分析

本稿で提案する描写的表現についての分析は、V1は接尾辞“得”によって名詞化された名詞であり、V2を主要述語とする以下のようなものである。

(17) 描写的表現



(17)の構造は(18)の主述述語文の構造と同じである。また、この分析は、Chao 1968: 357のものと同じのものであり、目新しいものではない。

(18) 他进步很快。(彼は進歩がはやい)

この分析で問題となるのは、名詞化された“V得”の前に“把+NP”が生じる、つまり、名詞の前に“把+NP”が生じるということである。

(19) 他把话说得很清楚。(彼は話をはっきり話した)

しかし、以下の日本語、英語の例のように、動詞から名詞を派生するとき、その項構造は名

詞によって受け継がれる<sup>1)</sup>。

(20) a. スパゲティを食べる

b. スパゲティの食べ方

(21) a. John refused the offer.

b. John's refusal of the offer

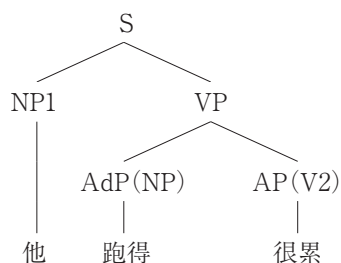
(19)において“把”が動詞の目的語を表示する場合と同じように現われるのは、“把”が、日本語の“と”や“へ”と同じように意味格を表示するためであると考えられる。

(22) a. 景子と結婚する

b. 景子との結婚

また、結果的表現の構造は、V2を主要述語とし、V1はやはり接尾辞“得”によって名詞化された名詞であるが、時間詞（“今天”など）のような修飾語の働きをしているものであるとする以下のようなものである。

(23) 結果的表現



李臨定 1993: 195-196は、なにかの原因で程度的に強烈な状況が生れたことを表わそうとするには、次のようにすればよいと述べている。

まず(24)のような簡単な主述文を作る。

(24) 他很胖。(彼はふとっている)

それから前に動詞を加えて“很累”という状況がいかなる原因によって生じたかを説明するようにする。こうすると(25)のような“得”字補語文ができあがる。

(25) 他吃得很快。(彼はよく食べて、ふとっている)

(23)の構造はこの李臨定 1993の感覚と一致するものであると思われる。

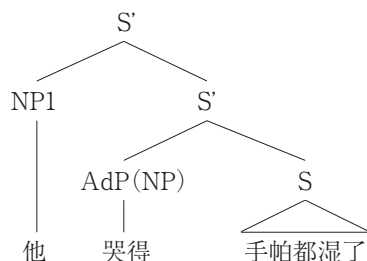
(17)(23)の分析によれば(9)のような否定詞“没有”のスコープが文末に及ぶという問題を解決することができる。中国語では、以下の(26)のように、比較文において否定詞“没有”のスコープが名詞と文末の形容詞に及ぶことがあり、(17)(23)の“跑得很快”“跑得很快”と(26)の“他的好”は、本稿の分析では同じ「名詞+形容詞」という構造となり、“没有”のスコープも同じ振舞いをする事となる。

(26) 我的汉语 [[没有] {他的好}]。(私の中国語は彼のほどよくはない)

節を補語とするとされる結果的表現の構造は以下のようなになる。

(27) 結果的表現

他哭得手帕都湿了。(彼は泣いてハンカチをぬらした)



この分析によれば主要述語は“哭得”に後続する節の述語である“湿”となり、“哭得”は“得”によって名詞化された、原因を表す修飾語、“他”は“哭得”の動作主であるが、主題の位置に生じている名詞句である。

## 6. 結果表現の使役用法

初級中国語の“得”字文の導入にあたっては、一般的に「動詞+“得”」の後、もしくは「動詞+“得”」の「動詞」と“得”の間には目的語を取ることができないというのが定説である。しかしながら、(28)のように「動詞+“得”」の後に目的語が生じることもある<sup>2)</sup>。

(28) 他气得爸爸生了一场病。(彼は父を怒らせて病気にしてしまった)

李臨定 1993: 196では、(28)の“爸爸”は、(29)のように“把”によって“气得”の前に出すことができる賓語(目的語)であると分析されている。

(29) 他把爸爸气得生了一场病。(彼は父を怒らせて病気にしてしまった)

沈力 1990: 59-61は、結果を表す“得”字文がV1を主要述語とすることについての問題点として、次のような例を提示している。

(30) 小明哭得张三很烦。(小明は張三がいやになるほど泣いた)

(31) 小明唱得张三睡不着。(小明は張三が眠れないほど歌った)

(32) 这道菜吃得张三很美。(この料理は張三を満足させた)

上の3例は、いずれも“NP V-得 NP VP”という形式を持っている。しかし、それぞれの“V得”のVの性質が異なっている。(30)の“哭”は1項動詞であるのに対して、(31)の“唱”と(32)の“吃”は2項動詞である。また、(32)の主語が“吃”のpatientであるのに対して、(30)(31)の主語は“哭”と“唱”のagentである。V1主要述語説で(30)-(32)の3例を分析した場合、問題となるのは、2項動詞である“唱”“吃”は“得”が後続すると、なぜ1項動詞のような振る舞いをするのか。また、なぜ(32)の“吃”は、固有の項体系と違い、patientを主語として取りうるのかということである。そこで沈力 1990は、“V得”は、2つの動詞“V”と“得”

が複合したものであり、これは全体で2項動詞である。“V得”構文において、主語はcauser、補語はresultを表すという分析を提示している。この沈力 1990の分析によれば、V1と“V得”は2つの異なる動詞ということになり、それは、上記の項体系の問題や、(33)(34)のような形式動詞との交替という問題などを説明することができると思われる。

- (33) a. 这场雨下得我没法出门。(この雨のために、私は出掛けられない)  
b. 下雨了。
- (34) a. 这场雨搞得我没法出门。(この雨のために、私は出掛けられない)  
b. \*搞雨了。

これらの結果表現の使役用法と前節でみた使役用法ではない結果表現(27)は構造的に全く異なるものである<sup>3)</sup>。

(27) 他哭得手帕都湿了。(彼は泣いてハンカチをぬらした)

(28)の“爸爸”は“把”によって“气得”の前に出すことができる目的語であったが、(27)の“手帕”は“把”によって“哭得”の前に出すことはできない。

(35) \*他把手帕哭得都湿了。

## 7. おわりに

本稿では、これまでV2が主要述語ではないことの理由とされた“没有”のスコープを基準に再度V2の主要述語らしさについて検討し、「動詞+“得”」が“得”によって名詞化された名詞であるとすれば、“没有”のスコープの問題を解決することができること、そしてそのことにより、描写的表現ではV2の形容詞を主要述語とみなすことができ、結果的表現では、V2の形容詞もしくは「動詞+“得”」に後続する節内の動詞を主要述語とみなすことができることを見た。また、結果表現の使役用法では沈力 1990の「動詞+“得”」を複合動詞とする分析を検討した。

以上の検討によれば、「“得”字文」というのは補語文ではなく、動詞が“得”によって名詞化された名詞を主語とする形容詞述語文、あるいは修飾語とする形容詞述語文、あるいは「動詞+“得”」を主要述語とする使役文の一種となる。

結果的表現の中で、主節の主語の前の「動詞+“得”」が原因を表す修飾語であるという分析を提示したが、教学の範囲を超えた理論的な問題を掘り下げるのであれば、蔡維天 2008: 2における、主節の主語の前の“怎么”が原因を表すという分析との関連が手掛かりになるかもしれない。

また、「動詞+“得”」が“得”によって名詞化された名詞になったり、使役を表す複合動詞として働いたりするということについては、「再び読み込む」から「再読み込み」への名詞化、そして「再読み込み」から「再読み込みする」への再動詞化という日本語の文法現象が手掛かりになると考えている。



「補語」という文法用語は中国語教育の初級の段階で、避けては通れないものでありながら、なくても不都合が生じない用語でもある。筆者はできるなら「補語」という文法用語を中国語のテキストからなくしてほしいと願っている。現代のほとんどの語学教育は外国語運用能力を身に付けることが目的であると認識しているが、例えば中国語初級教育の中で、「下線部は何という補語か答えなさい」というような試験問題はあってはならないと考えている。

また、「日中いぶこみ広場（朝日出版社）」や一般的なテキストでほとんどが「可能補語」としている文法事項を、出版社のホームページではベストセラーと謳っている「WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書（同学社）」では「結果補語・方向補語の可能形」としているというような用語、文法事項の不統一という問題がある。

本稿で検討した「“得”字文」も、「はじめに」でも触れたように、辞書、テキスト、文法書により、「状態補語」か「状態補語」か「程度補語」かという用語の不統一が学習者に不必要な負担を与えるため、教育上の問題点とされるものである。初級の段階では本稿でいう描写的表現の例が文法事項として扱われる程度であり、形容詞述語文の一種として取り上げれば不必要な負担を避けることに繋がると思われるが、本稿での「“得”字文」の検討を端緒として中国語の「補語」全体の再検討を試みたいとも考えている。

#### <注>

- 1) 名詞が動詞から項構造を引き継ぐことについては、杉岡 1989: 168の指摘による。
- 2) この構造の「動詞+“得”」の後の名詞が目的語であることについては、J. Huang, A. Li, and Y. Li 2009: 85-86も参照。
- 3) 湯廷池 1992: 77は本稿でいう結果的表現を「起動不及物」、使役を表す結果表現を「使動及物」と呼び、以下のような差異があることを示している。
 

「起動不及物」は“骑马”を「“把”字句」「“被”字句」にすることはできないが（以下の(b)(c)）、“骑马”を省略することはできる(d)。

  - a. 张三<sub>i</sub> [[骑马] [骑得 [Pro<sub>i</sub> 很累]]]。(张三<sub>i</sub>は馬に乗って(张三<sub>i</sub>が) 疲れた)
  - b. \*张三<sub>i</sub> 把马骑得 [Pro<sub>i</sub> 很累]。(张三<sub>i</sub>が馬に乗って、张三<sub>i</sub>が疲れた) という意味では不可。
  - c. \*马被 (张三<sub>i</sub>) 骑得 [Pro<sub>i</sub> 很累]。(馬が(张三<sub>i</sub>に) 乗られ、张三<sub>i</sub>が疲れた) という意味では不可。
  - d. 张三<sub>i</sub> (骑马) 骑得 [Pro<sub>i</sub> 很累]。(张三<sub>i</sub>が馬に乗り、张三<sub>i</sub>が疲れた)

「使動及物」は“骑得马”を「“把”字句」「“被”字句」にすることはできるが（以下の(f)(g)）、“骑得马”の“马”を省略することはできない(h)。

  - e. (张三) [骑得马<sub>i</sub> [Pro<sub>i</sub> 很累]]。(张三<sub>i</sub>が) 馬に乗って馬を疲れさせた)
  - f. (张三) [把马<sub>i</sub> 骑得 [Pro<sub>i</sub> 很累]]。(张三<sub>i</sub>が) 馬に乗って、馬を疲れさせた)
  - g. 马<sub>i</sub> 被 (张三) 骑得 [Pro<sub>i</sub> 很累]。(馬が张三<sub>i</sub>に乘られ、馬が疲れさせられた)
  - h. (张三) [骑得\* (马<sub>i</sub>) [Pro<sub>i</sub> 很累]]。(张三<sub>i</sub>が馬に乗り、馬が疲れた) という意味になる場合「马」を省略することはできない。



<参考文献>

- 李臨定 1993. (宮田一郎訳) 『中国語文法概論』。東京：光生館。
- 望月八十吉 1969. 「中国語の‘はめこみ構造’」, 『人文研究』20巻10分冊, 14-29頁。(望月八十吉『現代中国語の諸問題』東京：好文出版, 1994: 13-30に再録)
- 沈力 1990. 「中国語の結果補語を取る [V-得] 文の構造について」, 『言語学研究』第9号, 58-92頁。
- 杉岡洋子 1989. 「派生語における動詞素性の受け継ぎ」, 『日本語学の新展開』, 167-185頁。東京：くろしお出版。
- 蔡維天 2008. 「漢語疑問状語的事件結構」, 『現代中國語研究』第十期, 1-10頁。
- 湯廷池 1992. 「漢語動詞組補語の句法結構與語意功能：北平話與閩南話の比較分析」, 『漢語詞法句法第四集』, 1-93頁。臺北：臺灣學生書局。
- Chao, Yuan-Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.
- Huang, Chu-Ren and Louis Mangione. 1985. A Reanalysis of de: Adjuncts and Subordinate Clauses. *Proceedings of the 4th West Coast Conference on Formal Linguistics*, 80-91.
- Huang, C.-T. James. 1988. Wo paode kuai and Chinese Phrase Structure. *Language* 64: 274-311.
- Huang, C.-T. James, Y-H Audrey Li, and Yafei, Li. 2009. *The Syntax of Chinese*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Li, Y.-H. Audrey. 1990. *Order and Constituency in Mandarin Chinese*. Dordrecht: Kluwer.
- Paris, Marie-Claude 1978. De and Sentence Nominalization in Mandarin Chinese. *Proceedings of the 26th Conference of Chinese Studies*, 83-90.